

京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

京都の文化世界遺産シリーズ その15

平等院 (びょうどういん)

元は関白藤原道長の別荘「宇治殿」でしたが、道長の没後、その子の関白藤原頼通が1052年(永承7)宇治殿を寺院に改めました。これが平等院の始まりです。開山(初代執印)は小野道風の孫にあたり、園城寺長吏を務めた明尊です。創建時の本堂は鳳凰堂の北方、宇治川の岸边近くにあります。大日如来を本尊としていましたが、翌年には、西方極楽



10円硬貨の鳳凰堂

浄土をこの世に出現させた様な阿弥陀堂(現・鳳凰堂)が建立されました。

平安時代後期、日本では「末法思想」が広く信じられていました。これは、釈尊の入滅から2000年目以降は、仏法がすたれ、天災人災が続き、世の中は乱れるとする思想です。平等院が創建された1052年(永承7)は、まさに「末法」の元年に当たりました。当時の皇族・貴族は阿弥陀如来を祀る仏堂を盛んに造営し、極楽往生を願いました。藤原道長は、1020年(寛仁4)に無量寿院(のちの法成寺)を建立、また、11世紀後半から12世紀にかけては、白河天皇勅願の法勝寺を筆頭に、尊勝寺、最勝寺、円勝寺、成勝寺、延勝寺のいわゆる「六勝寺」が、今の京都市左京区岡崎辺りに相次いで建立されました。しかし、歴史書に名をとどめるこれらの大伽藍も、戦乱や火災によって今は跡形もなく、この時代の貴族が建立した現存する寺院という点で、平等院は重要な存在となっています。



GETALS(ゲタル)とは、下駄とサンダルを合わせた造語です。日本の伝統として

の下駄と斬新な鼻緒を融合させたまったく新しい下駄を開発しました。このGETALSは、意匠登録、商標登録をしています。足の指を刺激することにより冷え性の緩和、五本指に開放することで脚の筋肉の刺激や運動につながります。健康にいい下駄です。

